

## 道営電気事業の収支見通しについて

### 1 収支試算に係る試算条件

#### (1) 試算期間

- 平成27年度から51年度(FIT適用発電所の買取期間終了)までとする。

#### (2) 供給電力量(年間)

- シューパロ発電所については、「計画送電電力量」(81,939MWh)を基本とする。
- その他の発電所は、現在(H26～H27)の北電との「電力受給契約」における「基準受給電力量」(190,948MWh)を基本とする。

#### (3) 売電単価

##### ア FIT適用発電所

- 国が定める調達価格とする。(ただし、清水沢は今後の制度改正(価格低下)を見込む)

発電所名	調達価格	調達期間	備考
シューパロ	23.83円/kWh	H27～H46	認定済(調達価格は補助金受給分について減額)
滝の上	24.00円/kWh	H29～H48	認定済
清水沢	20.00円/kWh	H32～H51	調達価格・期間は現時点での想定

##### イ その他の発電所(現行が総括原価方式のもの)

- 国の電力システム改革によって、今後、総括原価方式による料金算定が廃止されることを考慮し、各発電所ごとの「発電原価」を「売電単価」とする。(売電単価目標下限値)  
※ FIT適用期間終了後の発電所も同様
- なお、FIT制度の見直し(廃止も含めた抜本的な制度改正)もあり得ることから、改修等に基づく新たなFIT適用は見込まないものとする。

#### (4) その他

##### ア 大規模改修費用等

- 老朽化施設を計画的に改修することとし、その費用(約260億円)を見込む。  
なお、滝の上発電所を除き、企業債の借入は行わず、FITによる収益等を財源とする。

##### 【大規模改修工程】

区分	発電所名	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	
大規模改修	滝の上発電所	■	■																				
	清水沢発電所	■	■	■	■	■																	
	岩尾内発電所			■	■	■	■	■	■	■													
	鷹泊発電所										■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	川端発電所															■	■	■	■	■	■	■	■
改修	ポンテシオ発電所					■	■	■	■	■	■												
	滝下発電所				■	■	■	■	■														
	その他改修工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
発電中央制御システム		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		凡例    ■ 調査設計    ■ 現地工事																					

##### イ 人件費

- 維持管理、運転監視業務等に必要な人員を確保する。

##### ウ その他の費用

- 過去の実績値や個別の算定等により計上する。

## 2 収支試算結果

収支の試算にあたって、売電収入は1(3)により算出された金額を基準とするが、平成32年度以降は入札による電力料金となることを想定し、次の3つのケースについて試算を行った。

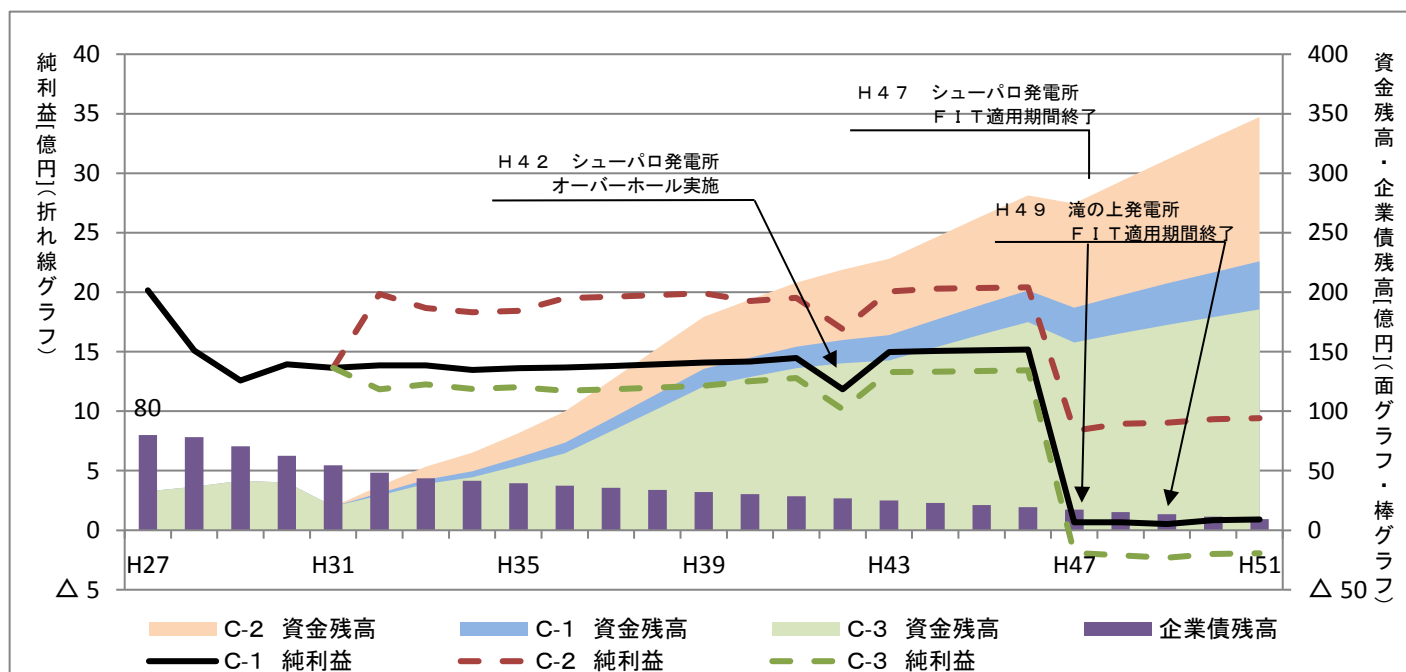
- ・ケース1 FIT以外の発電所の売電単価を発電原価とした場合。
- ・ケース2 ケース1の発電原価に3円を上乗せした場合。
- ・ケース3 ケース1の発電原価から1円を差し引いた場合。

※発電原価:当該年度の発電に要する費用を送電電力量で除した金額

(単位:百万円、税抜き)

区分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H42	H47	H49	H51	計
○ケース1(平均単価:8.74円/kWh)													
純利益	2,016	1,508	1,258	1,395	1,365	1,384	1,386	1,348	1,184	67	52	91	29,013
うちFIT	1,161	1,505	1,406	1,413	1,390	1,384	1,386	1,348	1,184	67	52	91	28,346
その他	855	4	▲149	▲18	▲24	0	0	0	0	0	0	0	668
資金残高	3,277	3,647	4,149	4,002	1,985	3,121	4,251	4,961	15,995	18,696	20,729	22,598	
○ケース2(平均単価:11.74円/kWh)													
純利益						1,985	1,868	1,831	1,690	836	902	941	41,136
うちFIT						1,384	1,386	1,348	1,184	67	52	91	28,346
その他						601	482	482	506	769	850	850	12,792
資金残高						3,722	5,334	6,526	21,895	27,441	31,154	34,723	
○ケース3(平均単価:7.74円/kWh)													
純利益						1,184	1,225	1,188	1,015	▲190	▲231	▲192	24,973
うちFIT						1,384	1,386	1,348	1,184	67	52	91	28,346
その他						▲200	▲161	▲161	▲169	▲256	▲283	▲283	▲3,373
資金残高						2,921	3,890	4,440	14,028	15,781	17,254	18,557	
企業債残高	7,997	7,833	7,067	6,252	5,447	4,823	4,364	4,148	2,677	1,732	1,339	935	

※「平均単価」はFIT適用発電所を除く値  
収益・費用ともに入力按分などによる試算値



### 3 考察

#### (1) 収支見通し

- 平成27年度から運転を開始するシューパロ発電所のFITによる増収により、純利益は約14億円程度で推移する。
- なお、平成27年度は国が管理する夕張シューパロダムの供用開始等に伴い、企業局が所有する下流の発電所に減電が生じるため、国から補償を受けることとなっていることから、一時的に純利益が増加する。
- 企業債償還や建設改良のための財源である内部留保資金については平成31年度まで減少するが、平成32年度以降においては減価償却費が企業債償還金を上回るなどにより増加に転じ、一定の資金を確保しながら、電力の安定供給を継続することが出来るものと考えられる。

#### (2) 課題等

- 平成32年度以降の売電は、従量制となることが考えられるため(入札・契約時に検討)、機器の故障等による発電停止や渇水時のリスクも充分考慮しておく必要がある。
- また、国の電力システム改革の動向によっては、これらの変化に的確に対処するための費用(設備・体制)が必要となる可能性がある。